

(1) 双葉郡教育復興ビジョンにかかる協議・検討等**□ 双葉地区地域学校協働本部（旧 双葉地区学校支援地域本部・年 1 回実施）**

- 目的：多様な主体との連携を図り、教育の充実、教育と地域復興の相乗効果を生み出すことを目的に「双葉地区地域学校協働本部」を組織する
- 構成：8 町村地域コーディネーター、8 町村小中およびふたば未来学園高校、8 町村教育委員会を代表する者等
- 会議日：2017 年 6 月 28 日（水）10 時 30 分～12 時 00 分
- 議事内容
 - ・ 社会教育法改正について（文部科学省生涯学習政策局社会教育課）
 - ・ 復興計画において社会教育の位置付け（文部科学省生涯学習政策局社会教育課）
 - ・ 各町村での活動事例紹介
 - ・ 今後の取り組み 外部講師の活用について
ふたば未来学園、県教育庁相双事務所より等
- 事業・外部講師の活用～各町村小中学校より外部講師の依頼を受けコーディネート
 - ・ 5 月双葉郡中高バドミントン交流会～ふたば未来学園のバドミントン部協力
 - ・ 2 月小中高生バドミントン交流会～ふたば未来学園、猪苗代中学バドミントン部
協力、富岡町さくらスポーツとのコラボ
 - ・ ふたばワールド参加～富岡高校 OB・OG、ふたば未来学園女子サッカー部協力

□ 双葉地区中高連携協議会（年 1 回実施）

- 目的：双葉郡としての一体感を高め、生徒の主体性・協働性・創造性を育成する
- 構成：県教育庁代表職員、ふたば未来学園高校長および 8 町村立中学校長、8 町村教育長等（協議会長：笠井淳一 浪江中学校長）
- 会議日：2017 年 12 月 18 日（月）10 時 00 分～12 時 00 分
- 議事内容
 - ・ 中高生交流会、ふるさと創造学サミットの振り返りおよび次年度方向性の検討
 - ・ ふたば生徒会連合について 等

□ 委員会連絡協議会（年 2 回実施予定）

- 目的：各委員会・取組間の情報共有、連携
- 構成：各委員会委員長および中高連携協議会長（第 1 回目は昨年度委員長も出席）
- 会議日・議事内容：
 - 第 1 回 2017 年 6 月 9 日（金）16 時 00 分～17 時 30 分
 - ✓ 昨年度の各委員会の成果・課題共有
 - ✓ 今年度の各委員会相互の情報共有・連携案の検討
 - 第 2 回 2018 年 2 月 8 日（木）13 時 30 分～15 時 30 分（予定）
 - ✓ 今年度の各委員会の成果・課題共有
 - ✓ 次年度に向けて

□ その他の取組

➤ 福島大学による支援活動

- ふるさと創造学カリキュラム検討に係る指導・助言
- ふたば未来学園高校での学習支援活動
- 双葉郡内各小中学校・ビジョン関連の行事への参加、ボランティア協力 など

(2)ふるさと創造学サミット(第4回)

□ 趣旨

- ふるさと創造学の取組を共有し、学びを通じた交流で、地域のつながりをつくる
- （今年度スローガン）～伝えあい、つながって、広がる ふるさとふたばの学び～
町村や校種を越えて学びあい、多様な見方・考え方にふれることで視野を広げる

□ 体制：(サミット実行委員会)

- 実行委員長：堀内 弘志 双葉北小学校長
- 委員：各町村・高校・相双教育事務所より1名以上（計17名）

□ 実施概要

- 日時：2017年12月9日（土）10時30分～14時45分
- 会場：ビッグパレットふくしま 多目的展示ホールC（郡山）
- 内容：ポスターセッション形式で取組成果を共有する、「学びあいセッション」、小、中高別の「ランチタイム交流」

□ 参加者数（計691名）

- 児童生徒256名（小学生120名、中学生126名、高校生10名、）
- 教職員等226名（小学校73名、中学校77名、高校6名、その他70名）
- 当日来場者209名



□ 次年度に向けた成果・課題等 ※第4回実行委員（振り返り会）は1/24に開催予定

- 各校それぞれに工夫を凝らした内容で、ふるさとの意味を考え、新しいふるさとを作っていこうという子供たちの思いが感じられる発表もあった。様々な交流の仕方によって双方向の学びあいが実践されていた
- 各町村実行委員による現場主導の企画運営が更に進んだ。今後も引き続き子どもたちの「学びあいの場」「社会体験の場」を協働で作りに上げるといふ共通理解を更に広める必要がある

(3) 小学校絆づくり交流会

□ 趣旨

- 町村の垣根を越えた仲間づくり
- 双葉郡内小学校の教職員の交流・情報交換

□ 体制：(絆づくり実行委員会)

- 実行委員長：郡司博明 津島小学校長
- 委員：各町村（小学校）より1名（計9名）

□ 実施概要

- 日時：2017年8月10日（木）10時10分～14時00分
- 会場：ビッグパレットふくしま多目的展示ホールB・C、屋外展示場（郡山）
- 内容：ミニ運動会、昼食交流

□ 参加者数（計341名）

- 児童170名
- 教職員等158名（教員94名、ボランティア32名、保護者等24名、その他21名）

□ 次年度に向けた成果・課題等

- 年々参加者が増加傾向にあり、多様性にふれる貴重な機会になっている。事後の合同授業などで再会を喜ぶ場面も見られるなど、積み重ねが生きてきている。
- 次年度開催：2018年8月10日（金）（ビッグパレットふくしま仮押さえ済）。今後は8月10日の固定開催とする。2019年（平成31年度）は会場をいわき方面として今後検討
- プログラムはミニ運動会と昼食交流を基本とし、好評だった昼食交流の時間は、コーナーを増やすとともに、各班がゆとりをもって巡遊できるよう設定。全校が開始から終了まで参加できるようタイムスケジュールを調整



(4) 中高生交流会

□ 趣旨

- （双葉郡中高連携の目的）交流を通じ生徒たちが主体性・協働性・創造性を発揮するとともに、町村や世代の垣根をこえて双葉郡のつながりを感じる
- 今年度の実施目標
 - お互い共感したり認め合ったりしてつながりを感じる
 - 普段の学校生活の中ではできない学びを体験し主体的に参加し、わくわくする

□ 体制：（中高交流会実行委員会）

- 実行委員長：南郷市兵 ふたば未来学園高校副校長
- 委員：町村（中学校）・高校より1名（計11名）

□ 実施概要

- 日時：2017/8/22（火）10時00分～15時30分
- 会場：郡山市立中央公民館（郡山市）
- 対象：双葉郡内中高生、双葉郡にゆかりのある中高生
- 内容：選択クラス別ワークショップ（全体コーディネーター：秋元康さん）
 - ◇ A組【写真×デザイン】（講師：蜷川実花さん）
事前に撮影した100枚の写真から好きな16枚を選定し、オリジナル写真集を作成。
出来た作品をお互いに見せ合い、意見を交換しながら交流を図る
 - ◇ B組【パフォーマンス×デザイン】（講師：宮本亜門さん）
赤ずきんを題材に演出について意見を出し合い、多様なものの見方、考え方を知る
 - ◇ C組【フード×デザイン】（講師：三國清三さん）
～みんなを笑顔にする！「ふたばの夢と未来のランチボックス」を作ろう～をテーマに、392個のお弁当を作成
 - ◇ D組【音×デザイン】（講師：久石譲さん）
「みんなで曲をつくろう」を目標に、夏をイメージして言葉を出し合って歌詞を作り、そこにメロディをつけることで曲を作り上げる

□ 参加者数（計359名）

- 生徒191名（郡内中学校生徒157名、ふたば未来学園生33名、区域外就学生1名）
- 教職員等126名（郡内中学校84名、ふたば未来学園高校9名、その他75名）

□ 次年度に向けた成果・課題等

- 講師陣が世界的に著名な方々で、普段の学校生活では体験できない貴重な機会となった。生徒にとってもよいきっかけづくりとなり、「わくわく感」を達成できた
- クラスによって交流の程度が異なったものの、生徒の振り返りからは「中学生同士または中高生で交流できて良かった」、「楽しかった」という意見が多く見られた
- 今後は「中高交流会は体験を通しての交流の場である」という共通認識を郡内教職員間で持てると良い

(5)カリキュラム検討・教員研修

1. 教員研修会

□ 目的

- （テーマ）「小規模校、少人数学級での学び合い」
～ 一人ひとりのよさを認めながら、子どもたちを集団として高めるには ～

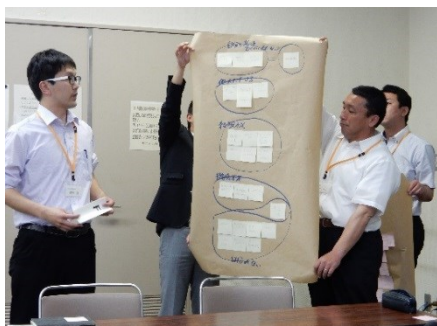
□ 実施概要

- 日時：2017年5月23日（火）13時30分～16時30分
- 会場：安積公民館・総合学習センター（郡山）
- 講師：菊池省三 先生（教育実践研究家、元小学校教師）
- 内容：講演・ワークショップ（グループ協議、全体共有）

□ 参加者数（計 39名）

□ 次年度に向けた成果・課題等

- 郡内の先生方にも菊池先生の指導方法は良く知られており、講演を楽しみに参加された先生も多く、講演、ワークショップを通して、学校に持ち帰り、早速実践してみますという声も聞かれるほど有意義な研修となった。群れと集団の違い、単につるんでいる群れと一人一人意思を持ち自ら考え行動し、仲間を思いやる気持ちを持つ集団、小さな学校でも集団を作れる。最終的には教師の腕となるが、その手法をワークショップで、コミュニケーション能力の一端も教えていただいた。川内村の若い先生から要望があり、12月には川内村に菊池先生をお呼びして講演を行っていただいた。郡内の先生方の参加、川内村の保護者の参加もあった。先生方が共通した課題として挙げる事が、発表などできたものを話すことはできるが、急に振られたりしたことなどは、なかなか話ができないことや自分から積極的に話しかけるまでにはいかない
- 年度当初に郡内教職員が情報交換・交流する貴重な機会となり、若手の先生方の参加が増え、意見交換も多くみられ、大変に盛り上がった研修会となった



2. 3校合同授業公開（葛尾中学校・富岡第一・第二中学校）

□ 目的

- 次代を生きる子どもたちの資質・能力を育成するためにどのような授業づくりをしていけばよいか、授業研究を通して学習指導の本質を考える。同時に、町村を越えた交流を通じた学びの中で子どもたちの多様性を育む双葉郡独自の魅力的な教育のあり方を追究する

□ 実施概要

- 日時：2017年6月2日（金）13時30分～16時30分
- 会場：富岡町立富岡第一中学校・第二中学校 三春校
- 講師：学校法人明星学苑 教育支援室長 細水保宏 先生（授業者）
- 内容：講師による公開授業および研究会（授業リフレクション・講演）

□ 参加者数（計28名）

□ 次年度に向けた成果・課題

- 算数・数学好きにすることが思考力・表現力を育てる特効薬である。指導者がどう授業を創りあげていくのか。教師自身が教科の本質に迫る活動自身を楽しむ心、算数・数学のよさや美しさを楽しむ心など、教師の人間性を豊かにして、授業力を鍛えることが大切であると細水先生自らの授業を通して、先生方に伝え感じてもらった
- 昨年小学校合同で授業を行った子どもたちが、今年は中学生になって再び集まった。1年目とは違い、夏の交流会、冬のサミットだけでなく、日常での学校同士の交流や授業も増え、違和感なく授業に取り組めるようになり、他校の生徒と触れ合い、生徒が多様な意見や価値観にふれ町村を越えた絆をはぐくむ機会となっている



※ 今後、以下にて「第5回教職員による双葉郡子供未来会議」を実施予定

- 日時：2018年2月15日（木）13時00分～16時30分（予定）
- 会場：ビッグパレットふくしま 1F マルチパーパスルーム2
- 目的：
 - ・子どもの主体性・協働性・創造性を育む「双葉郡独自の魅力的な教育」の在り方を探究する
 - ・双葉郡の教職員が町村や校種を越えた交流を通して情報共有を図る
- 講師：京都造形芸術大学 副学長 本間正人 先生

(6)ICT 活用推進・広報誌編集制作

1. ICT 活用推進

□ 目的

- 離れている双葉郡の学校同士をつなげ、子供たちへの教育効果を高める
- ※ 平成 28 年度より福島全県導入となった「G Suite for Education」（Google 社のグループウェアサービス）を平成 27 年度より先行導入し、先行地域として活用推進

□ 体制（ICT 活用・広報委員会）

- 委員長：早川良一 大熊中学校長
- 委員：各小・中・高校 1 名（計 22 名）

□ 取組概要

- 委員会での情報共有（9 月 13 日）
- G suite for education 研修会（8 月 18 日）
- 先進地域視察
 - 新地町 ICT 活用発表会（11 月 16 日）
- ビジョンに係る各行事や取組（絆づくり交流会・中高生交流会・ふるさと創造学サミット、広報誌作成等）での町村を越えた協同・情報共有のサポート
- ハングアウト（Google テレビ会議）等を活用した生徒交流のサポート

□ 次年度に向けた成果・課題等

- 各校 ICT 委員が中心となりビジョン関係行事・取組での活用をサポートすることで、全体的な ICT リテラシーの向上・活用推進につながった
- 校内ネットワーク環境整備、運用ルールやセキュリティポリシーの明確化が必要

2. 広報紙「ふたばの教育」編集制作

□ 目的

- 双葉郡内各校の取組や子供たちの姿・思いを、教員や子供の視点を大切に地域内外へ取組を発信することで、ふたばの絆をつくとともに、表現・発信等のアクティブ・ラーニングにつなげる

□ 体制（ICT活用・広報委員会）

- 委員長：早川良一 大熊中学校長
- 委員：各小・中・高校1名（計22名）

□ 取組概要

- 広報誌の編集方針・テーマの検討
- 各校での素材収集およびビジョン関係行事の取材 等

□ 今年度広報誌概要

- 編集方針・内容
 - ・ 各学校の学校生活や取組紹介の充実
 - ・ 現場教職員、子供たちの視点からの表現・発信につなげる

号	2018年春号（vol.8）
発行	2018年1月下旬発行予定
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活の日常～笑顔・やる気～（「地域とのふれあい」を通した学校独自の活動など） ・ 夏の交流会レポート（絆づくり交流会、中高生交流会） ・ サミットレポート ・ ふたば生徒会連合の活動／休校式

- 読者：双葉郡8町村の地域住民（各町村広報誌に同封し全戸へ発送）
各校保護者・双葉郡内教育関係者（郡内各校、県教育委員会等へ発送）
- 部数：約38,000部

□ 次年度に向けた成果・課題

- 各校が開設しているブログやHPなどのQRコードを埋め込むことで、広報誌として継続的な効果が期待できる
- 今後は紙面を子供たちの表現・発信活動の場として、活用していきたい

(6)ふたば生徒会連合

□ 目的

- 交流を通じ生徒たちが主体性・協働性・創造性を発揮するとともに、町村や世代の垣根をこえて双葉郡のつながりを感じられるようにする

□ 体制（ふたば生徒会連合）

- 委員長：笠井淳一 浪江中学校長
- 委員：各中・高校 1 名（計 10 名）

□ 取組概要

- 年 2 回の委員会での情報共有および企画検討（6 月 9 日、11 月 9 日）
- 生徒会会議
 - ハングアウト（Google テレビ会議）を活用した交流（6 月 30 日、7 月 10 日）
 - 対面での交流（7 月 27 日）
- 九州北部豪雨災害被災地支援
 - 支援募金活動（9 月 4 日～15 日）
 - 代表生徒による福岡県朝倉市訪問（10 月 20 日～22 日）
- 中高生交流会オープニングおよびふるさと創造学サミットランチタイムの企画運営

□ 次年度に向けた成果・課題等

- 中高生交流会オープニングなどの生徒による企画運営は、双葉郡の一体感をつくる良い機会であり継続していきたい
- 被災地支援を皮切りに、今後も生徒の主体性に応じて活動の幅を広げていきたい
- 今後、ハングアウトなどを活用して生徒会同士の定期的な交流の場を設定することが課題

以上